

たまの創生総合戦略懇談会 議事概要

日 時：平成 28 年 10 月 3 日（月） 13:30～14:30

場 所：玉野市役所 3 階 特別会議室

出席委員： 岡本 輝代志 委員 北川 誠 委員
大森 達生 委員 和気 孝治 委員

河田 一朗 委員

事務局： 玉野市長 黒田 晋

玉野市政策財政部長 加藤 翔大

玉野市政策財政部総合政策課長 中嶋 英生

玉野市政策財政部総合政策課長補佐 小笠原 隆文

玉野市政策財政部総合政策課行政管理室長 山平 智宏

玉野市政策財政部総合政策課行政管理室主事 山本 和良

1 開会

2 開会挨拶

3 委員紹介等

4 たまの長期人口ビジョン・たまの創生総合戦略に係る検証について

委員 A： 戦略に掲げる目標の平成 27 年度時点における達成度を、指標のあるものについて、検証してみたところ、20 項目について達成、9 項目について未達成、どちらも判別出来ないものが 1 項目となった。目標設定の妥当性は別途考慮しなければならないが、概ね目標は達成できていると考えている。

委員 B： 平成 26 年度における「卸売業の年間販売額」の伸びが急激であり、経済の中心性が高まってきていると考える。

委員 C： 地域の企業の新分野進出等により雇用創出を行っていくことは重要だが、核となる企業を誘致する活動は継続的に行っていく必要があると考えている。玉野市は用地が少ない等の理由により難しいことは理解しているが、市の産業について若干の閉塞感を感じており、金融機関と行政とが官民一体で連携しながら誘致していくことが必要だと考えている。

玉野市への人の流れについて、瀬戸内国際芸術祭の直島への来場者数が 30 万人であるのに対し、玉野市は 4 千人と非常に少ない結果となっている。PR の手法や展示内容の違いによる影響だとも考えられるが、30 万人が玉野市を滞留せずに通過している現状を改善する必要がある。玉野市に留まる方を増やすためにも、岡山市や JR（サイクリズム など）とより協力していくことが必要である。

委員 D： 現時点で目標に対し大幅に達成している項目については、目標値を上方修正することも検討する必要がある。また、施策に大きな効果を与える事業に

については、より注力していくことが重要である。

委員E : 目標を達成した項目、達成できなかった項目それぞれを検証し、今後、結果が出ていない項目に注力するか、全般的に底上げするのか、方針を定めることが重要である。

地方創生には地域性を生かしていくことが肝要だが、たまの創生総合戦略からは、玉野という地域をどう生かしていくのか掴むことができない。一言に玉野といっても地域ごとに特徴が違うことから、各地域の特徴に合わせた施策展開が必要だと考える。

玉野市には他にない魅力が多々あるが、それについて多くの人に知られていないと感じており、今以上にPRに力を注ぐべきだと考える。

委員F : 企業の業績が下がった要因は、コミュニケーションや対象とする顧客等が多様化し、複雑性が増したことにある。現代社会は行うべき事が細分されすぎており、狭義的にそれぞれに対応した様々な知識が必要となる。しかしながら、広義的に様々な事に対応していくためには、その知識を統合し、汎用性を高めた知恵が必要となる。従来 of 考え方に固執するのではなく、目標に向けて知識の整理、統合するスキルが必要となる。

同様に玉野市には魅力的な事柄が多くあるが、それぞれに繋がりがなく、玉野市を一言で表すことができなくなっている。

今後、オリンピック、万博が開催される予定であることから、若者の意見を取り入れ、これに伴う人の流れを呼び込んでいただきたい。

また、岡山・倉敷・高松との連携をより強くするため、ベッドタウン化について検討することも一つの考えではないかと考える。

5 その他

6 閉会